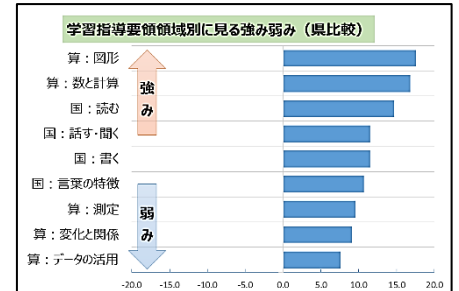
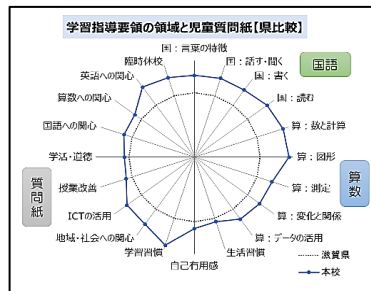
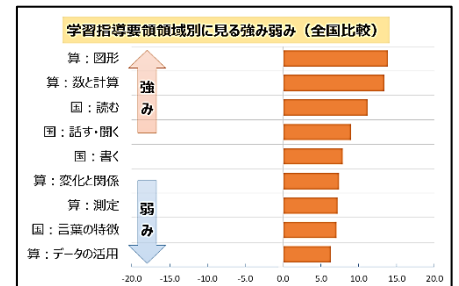
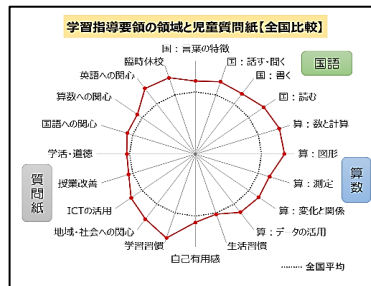


我が校の強み弱み分析・評価シート

【調査結果よる強み・弱み】

○右グラフのように、国語科、算数科とも全調査項目において、全国・県を上回る正答率でありました。また、両教科ともに、各問題に対しての正答率が高いだけでなく、無解答率も非常に低く（無解答者が少ない）、粘り強く最後まで解答しようとする姿が見られました。

○強み・弱みのグラフより、どの領域においても全国・県の平均正答率を5ポイント以上上回っており、これまでの学習の定着ができてきている児童が多くいることが分かりました。

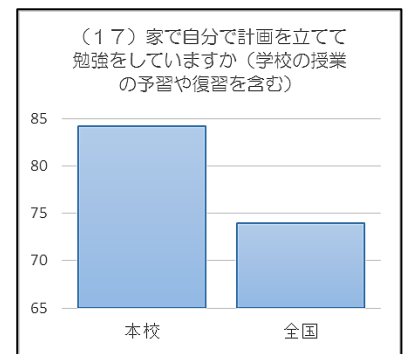


【質問紙調査より】

○質問紙調査においては、「英語への関心」「ICTの活用」「地域・社会への関心」「学習習慣」の項目で全国・県よりも高い結果が出ており、特に「学習習慣」の項目では「家で自分で計画を立てて勉強していますか（学校の授業の予習復習を含む）」の質問に対して肯定的に答える児童が8割以上いることが見られます。また、昨年度の休校時の期間中の学習の取組についての質問においても、自分で計画を立て学習を進めたり、分からない問題をそのままにせず、自分で調べたり、家族や先生に聞いたりして学習を主体的に進めることができる傾向が見られます。

○質問項目別に見ると、「自分には、良いところがあると思いますか」や、「新聞を読んでいますか」の項目において、全国や県に比べ10ポイント以上肯定的に回答する児童が見られました。また、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」「失敗を恐れなくて挑戦していますか」「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」の項目においても高い傾向がみられます。これらは本校の強みであるといえます。

○道徳や学級会等の話し合う活動を問われる質問項目では、若干低い傾向が見られました。コロナ禍において教育活動が制限されたこともあり、これまで本校で実施してきた「学び合い」を取り入れた授業展開ができずにいたためだと思われます。



【全国学力・学習状況調査をもとにした重点取組事項】

○学校教育目標の実現に向けて

自己肯定感の高さや、時事への関心、しっかりとした学習習慣等、児童の強みを最大限に生かしながら教育課程を見直し、学校教育目標である「じっくりと考え、考えたことをもとに行動をおこす青山っ子」の育成を図っていく。

○授業改善

コロナ禍であっても感染対策を工夫しながらできるグループでの活動のあり方を模索しつつ、グループでの意見の交流や話し合い活動等を積極的に取り入れ、児童の考えを広げ、学びを深められる授業改善に努める。学習に対する主体的な態度の育成を図る授業の工夫を心掛け、授業と関連した家庭学習の取り組みを大切にする。

○家庭・地域・学校の連携

コミュニティースクールと連携し、「家庭」「地域」「学校」が一体となった教育活動を図る。